

花園御岳城跡(大里郡寄居町)

築城年代: 戦国時代、築城者: 藤田氏

前方の小山に花園御岳城跡が存在する/右手前にお地蔵さんが立つ





横には馬頭観世音も立つ



さて、ここを左手に進むと少林寺がある



ここは少林寺の駐車場の一つ/正面の小山が目指す花園御岳城跡/右手の道を進むと境内がある



ここが少林寺



左手に説明板が立っている



花園御岳城を築いた藤田氏が開基ともいう/五百羅漢の石仏群と千体荒神石碑が有名らしい



しょう
少

りん
林

じ
寺

曹洞宗の寺である少林寺は、永正8年（1511年）、長泉寺開山大洞存齋大和尚が乞われて開山となりました。

開基は、北条氏康の家臣となった藤田右衛門太夫国村となっているが、康邦だろうともいわれており確かではありません。

本尊は釈迦牟尼仏です。

慶安年中（1648～1652年）寺領15石を与えられています。

二十四世大純万明大和尚の時、文政9年（1826年）春より四方浄財を募り、寺後山中に釈尊、十六羅漢、五百羅漢の石像並びに千体荒神石碑を天保3年（1832年）に安置し、信仰の道場として今日に続いています。

山頂に立てば、寄居市街地が一望できるとともに、秩父連峰が目前に迫り、眼下に円良田湖が望めます。

寄居町・埼玉県



五百羅漢入口の矢印に従ってここを左手に進む



山道に五百羅漢の石仏が立ち並ぶ



さまざまな恰好をした羅漢石仏が目を引く





更に登って行く





何やら意味深の石垣がある/この向こうが広場となっている



ちょっとした平地となっており、花園御岳城の一部であったのかもしれない



反対側から見たところ



これが山頂(この広場)にある釈尊と脇侍文殊、普賢の二菩薩並びに十六羅漢



山麓から山頂まで、山に向かって左側に510余体の羅漢石仏群、右側に960余体の千体荒神の石碑群が並んでいると記されている



ご ひゃく ら かん せん たい こう じん
五百羅漢と千体荒神

碑文によると文亀年間（1500年ごろ）に、突然天地が震動、暗黒化し、人々の動きがとれないでいるとき、山中より仏舍利が出現し、一大光明を放ち暗闇を破り、人々の苦難を救ったといえます。これにより、ここに大洞存齋大和尚が開山し、この奇跡に深く感銘し釈尊並びにその弟子たちの石像建立の悲願をたてられたものですが、機熟さず、24代大純万明大和尚地元をはじめとして、中山道は深谷宿より江戸に至るまで6年間、浄財勧請にあたり、天保3年（1832年）この偉業を成しとげました。

山頂に釈尊をまつり、脇侍文殊、普賢の二菩薩並びに十六羅漢を配し、山麓から山頂まで510余体の羅漢石仏（山に向かって左側）と千体荒神の石碑（右側、現存960余）は、その数と保存において関東一と称されています。

なお、乃木源希次（乃木大将の父）寄進による「三宝大荒神」の碑も現存しています。

この千体荒神は、戦時中、戦場の守護神として、現在は選挙のとき、参拝すると当選間違いなしといわれ、信仰を集めています。

五百羅漢は、孝子孝孫が亡くなった人を追慕し、一心に尊顔を仰ぎ見るとき、必ずその尊顔の中に亡くなった人の面影を見ることができるといわれています。

羅漢とは、仏教の信者の施しを受ける価値のある人という意味であり、悟りを開いた仏弟子に対する尊称でもあります。

寄居町・埼玉県



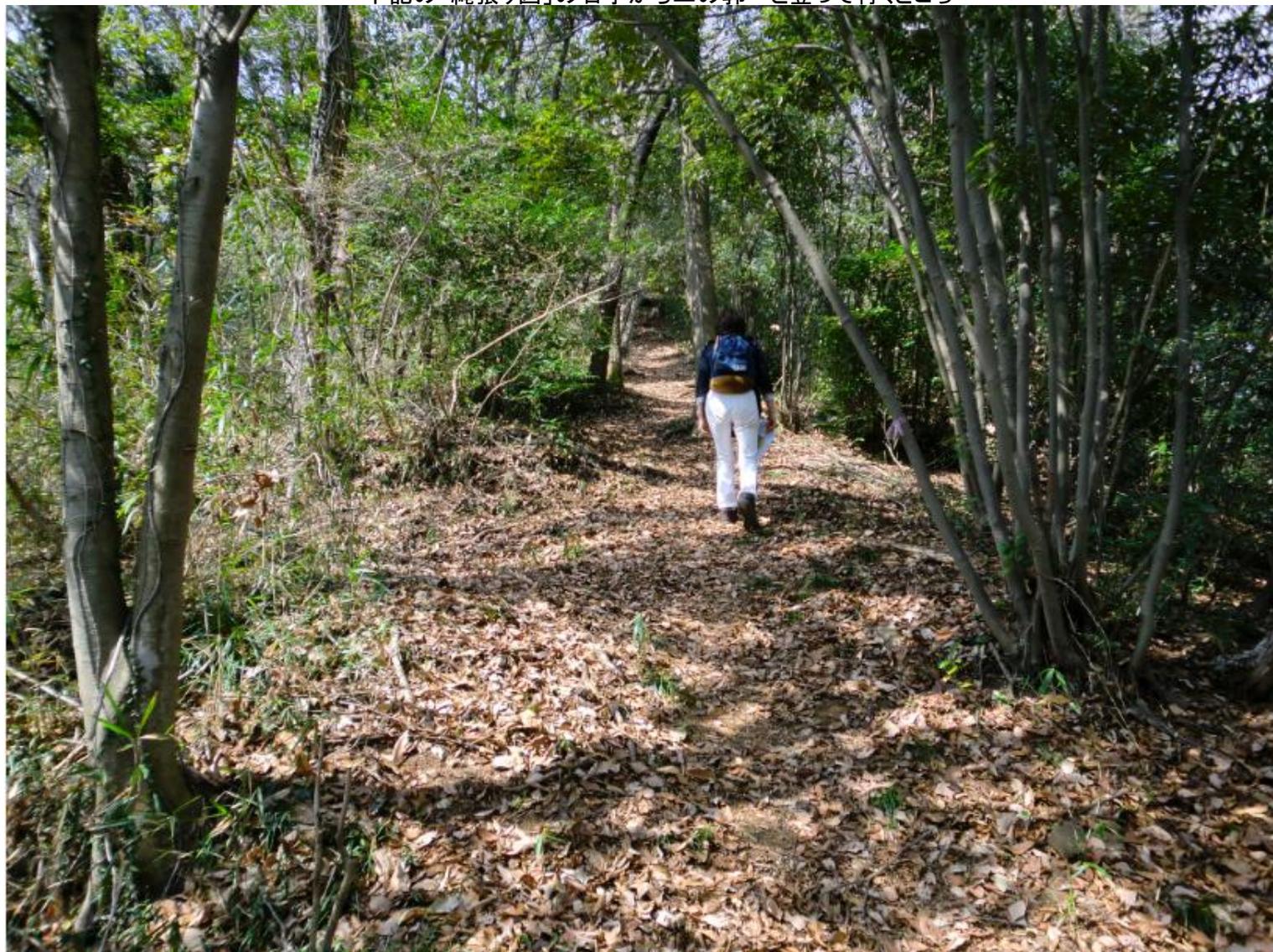
さて、前方を右手に進もう



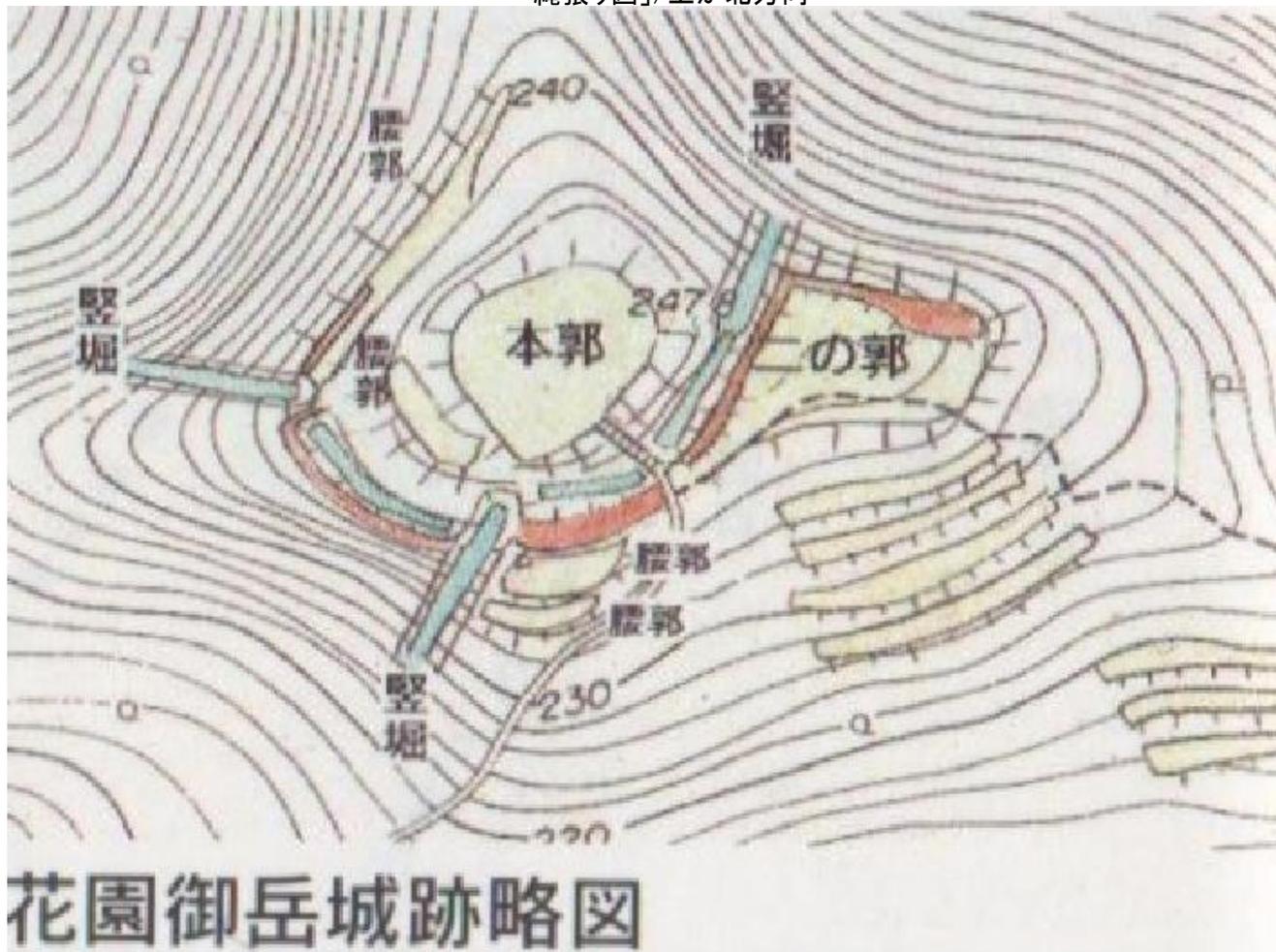
この標識を右手に下って行くと円良田湖に出るが、花園御岳城跡へはまっすぐに登って行く



下記の「縄張り図」の右手から二の郭へと登って行くところ



「縄張り図」/上が北方向



埼玉県立嵐山史跡の博物館発行「比企の中世・再発見」より

この上が二の郭でここは虎口であろうか



このような平場となっている



「縄張り図」にあるように高い土塁がある



その土塁の上に登って平場を見たところ



これは同じく本郭方向を見たところ/その手前には堀跡(横堀)が横切っている



さて、土塁に沿って進むと鳥居が見えてくる



ここは本郭(右手)への登り口/左手の階段は本郭にある御嶽神社への下からの参道



正面を登ると本郭(御嶽神社)がある



これは二の郭方向を振り返って見たところ



鳥居の左右には堀跡(横堀)が横切っている/これは本郭に対して右手を見たところ



左手を見たところ/この鳥居の部分は土橋状となっている



さて、本郭へと階段を登る



ここが本郭で御嶽神社となっている



さまざまな石碑が立ち並ぶ



振り返って登って来た階段の方向を見る





さて、先程の鳥居のところの堀跡(横堀)を時計回りに進んでみる





平場がある/これは「縄張り図」の南側の腰郭のようだ



こんな感じ



結構な平地となっている/左手が本郭



腰郭の先に豎堀が見える/「縄張り図」の南側の豎堀



その豎堀に下りて、豎堀が下って行く方向(南方向)を見たところ



振り返って本郭方向を見たところ



その豎堀を横断して堀跡(横堀)が更に続いている



右手が本郭で左手に堀跡(横堀)、土塁、崖と続く



土塁の左手は急峻な崖となっている



前方で堀跡(横堀)が止まっているように見える



本郭を見上げたところ



ここで堀跡(横堀)が止まっている



その先を見るとここにも豎堀が左手に下っている/「縄張り図」の西側の豎堀



これは振り返って進んできた方向を見たところ



更に進むとこんな平場が現れる/「縄張り図」の北西側の腰郭



こんな感じ



振り返って見たところ/左手が本郭/右手は急峻な崖



本郭を見上げたところ



そこから本郭に登ってこの北西側の腰郭方向を見下ろしたところ



さて、これは本郭から南西方向を見下ろしたところで、すぐ下に平場がある/「縄張り図」の南西側の腰郭のようだ/こちらに本郭の虎口があったらしい



その腰郭に下りて本郭を見上げたところ



振り返って下を見ると、先程進んできた堀跡(横堀)が見える



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/072hanazonomitake/hanazonomitake.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/yoriimati.htm>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/hanazonomitake-ivo/>

<http://www.geocities.jp/buntovou/f11e-gs/st-f2770hanazonoontake.html>

http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/61840706.html

<http://www.chichibu.ne.jp/~keig/index17.htm>

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~kanetukidouyama/hanazonomitakeiou.html>

<http://atenzasports23z.blog.so-net.ne.jp/2009-03-12>

<http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/hanazonomitake.htm>

<http://midnighttraveler.seesaa.net/article/323170298.html>

<http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-431.html>

<http://www43.tok2.com/home/yo1029/photo1236.html>

http://heihachi.at.webry.info/200903/article_11.html

http://tomioka.at.webry.info/201501/article_14.html

<http://azumino-fan.net/gyokyo-13/hanazono.htm>

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/06_ohsato/004_yorii/008_hanazono_mitake/hanazono_mitake_jou.html

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/hanazonomitake/index.html

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/subdir-siropage/hanazonomitakejou.html>

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.yoriimati.html>

